

特集！ スポーツを通じて、児童・生徒の たくましい成長を願う...



市教育委員会では、児童・生徒が人間性豊かに成長することを願うとともに、すべての市民がよりよく生きるための力を身に付け、生涯を通じて学び、支え合うことができる社会を目指すことなどを目的として、「東久留米市教育委員会教育目標」を定めています。平成18年度は「たくましく成長する人間」ほか三つの柱を目標として設定しました。「たくましく成長する人間」としては、具体的に「人間として創造的な活動をするために不可欠な体力を培い、たくましく成長し、充実した人生を送る人間を育てる。また、生涯を通じて積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成する」としています。今号の1面では子どもたちのさらなる体力向上と健康増進を願って、昨年実施した市立小・中学校の児童・生徒の体力調査結果および各種スポーツへの取り組み等を紹介いたします。

「東久留米市体力向上推進事業」の結果がまとまりました

子どもは体力低下が問題となっています。これまで市では、市立小・中学校の児童・生徒の体力について、詳細に調べたことはありませんでした。そこで、今年度は市内の全小学校（5・6年生）と全中学校（1年生）の約3000名の実態調査を行い、国や東京都と体位および運動能力について比較しました。

「週3日以上運動している」「1日2時間以上運動している」という児童・生徒がやはり高い数値となつています。さらに、「早寝・早起き・朝ご飯」という規則正しい生活リズムも体力に影響していることが改めて示されています。なお、同推進委員会では、協力校の取り組みや、学校や学級で

すぐ使える各種の運動カードも作成しています。体力向上事業協力校の取り組み
現在、第五小・第九小・第十小・神宝小の4校が協力校として、実態調査を活用して、体育科の研究を進めています。
なお、第五小と神宝小は市教育委員会の研究奨励校として、その成果を来年度に公開発表する予定です。詳しくは指導室 ☎470-7781へ。

新体力テストの結果

身長・体重・座高等の体位のほか8種類の運動能力テストを通じて、児童・生徒の体力の実態を調べました。詳細は2月に報告書としてまとめます（結果は図1の通り）。体位に関しては、3学年共通して国や東京都とほとんど同じですが、運動能力は全種目で国や東京都を下回る数値となつています。特に、全身持久性と俊敏性については調査をする方法に慣れていなかったとはいえ、平均値を下回る結果となりました。

体力向上事業推進委員会の取り組み

この結果を受け、市内の

平成25年 東京国体選手を目指して！ クライミング、テニスでジュニアを育成

国民体育大会（国体）は都道府県対抗、都道府県持ち回り方式で毎年開催され、国内スポーツ最大のイベントとして、日本体育協会・文部科学省・開催地都道府県の三者共催で行われます。陸上競技や水泳など37の正式競技に、高校野球など三つの公開競技があります。

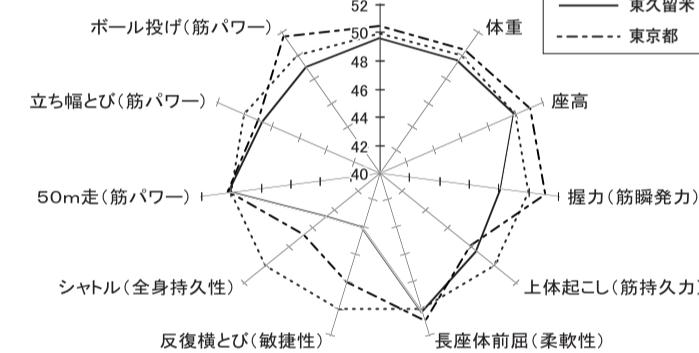
この国体が平成25年に、東京で開催されます。各競技の部門は少年男子・女子（中学3年生～18歳未満）、成年男子・女子（18歳以上）の4種別があり、小・中学生を東京代表選手に育成する時間は今から十分にあります。

そこで市体育協会（体協）では、市内スポーツ施設を利用し、加盟団体のハイレベルな指導者によって「クライミング」と「テニス」の代表選手を育てるべく活動を始めています。クライミングは週1回、テニスは夏期に重点的に行ってきています。中には、短期間に著しい上達を遂げているジュニアもいます。

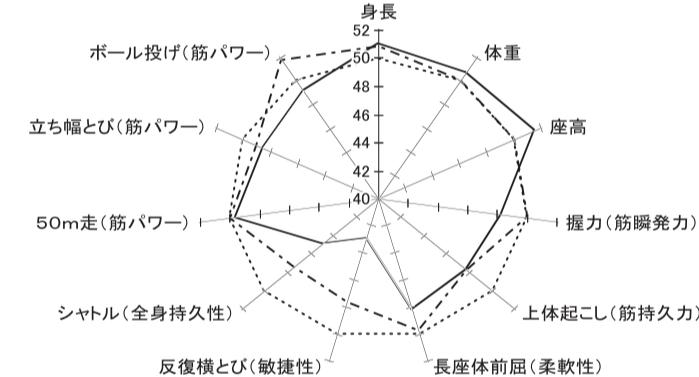
市民の皆さんも、今後の育成にご期待ください。

〈図1〉

新体力テスト【小5女子】



新体力テスト【小5男子】



東久留米市 中学校 スポーツ大会

～友情と感動の輪を広げよう

市の各中学校間での交流と親睦を図ることを目的として、昨年の8月から10月までの3カ月間、市のスポーツセンターで、「中学校スポーツ大会」が開催されました。

この催しは、昨年度まで市内の金融機関から、中学校のクラブ活動のために必要な備品を購入するためにいただいた寄付金を、スポーツを通じて教育目標を実践するために使って開催したものです。

各競技の結果（優勝校）は次のとおりです。

- ▼バスケットボール女子（中央中）・男子（大門中）
 - ▼バレーボール女子（大門中）・男子（西中）
 - ▼ソフトテニス女子（南中）・男子（大門中）
 - ▼バドミントン女子（リグ戦）（Aリーグ東中、Bリーグ東中、Cリーグ東中）
 - ▼男子トナメント戦（ダブルス東中、シングルス東中）
 - ▼2・3年ダブルス女子（東中）、1年ダブルス女子（東中）
 - ▼野球（西中）
 - ▼サッカー（西中）
 - ▼卓球（団体東中、個人南中）
 - ▼ソフトボール（南中）
- 市教育委員会では、このスポーツ大会が生徒の輝かしい青春の一コマとなるよう、今後も支援していきます。

がんばりの源は体力！

新年、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、子どもたちが未来に向かい明るい希望をもち続けていけるよう、願わずにはいられません。そのために、家庭・学校・地域・行政などすべての人が連携して子どもの安全を確保しながら、「生きる力」を育てるために努力することが大切であると感じています。

さて、子どもの教育を語る時、よく知・徳・体と言われます。そして、すべてのがんばりの源泉となるのは体力です。本市では、昨年初めての体力調査を実施しました。今年それを踏まえて体力向上策を学校などで実施して、健康でたくましい子どもの育成を推進していきます。また、子どもたちが楽しく学び生き生きと活動している姿を、広く市民の皆様にご覧いただく機会ができればと考えています。あわせて、誰もがどこでもいつでも楽しくスポーツや文化活動にいそめる環境整備に一層努力する所存です。

今年も、益々のご理解とご支援をお願いいたしますとともに、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



教育長 岡本 宏之

共育事始め

「金がすべてだ」とうそぶくような若者がどうして生まれてしまったのか。

教育再生について文科相が、学校や教育委員会だけの問題ではなく、五十年六十年のスパンで考えることが必要だと訴えています。目の前の諸問題に、つよく、適切に対処すると同時に、全国民の課題として、社会が、経済界が、家庭が、そして学校・教師が、挙げて考え、力を尽くさなければならぬ時です。生涯学習への意欲的な取り組みなどで、より高く、深く、自身を鍛え育てておられる保護者・市民の皆さんが、学校教育を見守り支えて下さることを願っています。先生方が学び続ける中で自信を持ち、主体的にこれを迎え、協力体制を整えて下さるよう期待します。

教育は、親に始まり家庭がその基礎づくりを担います。教育委員会は、これを受けつぐ学校教育を含め、その実質化へ向けて一層の努力をいたしますが、まずは、あらたまの春に明るい希望を託し、共育元年のスタートをとともに祝いたいと思います。

ご清福、ご発展を念じます。



教育委員長 榎本 隆司

◆教育委員長に榎本隆司氏を再任◆
平成18年10月5日に開かれた、平成18年第10回教育委員会定例会において、榎本隆司委員長が委員長に再任されました。委員長の任期は平成18年10月12日から19年10月11日までの1年間です。